

地元を愛する思いを大切に、活性化に挑み続ける――

今年で7回目の開催となる「ほたるまつり」のリーダー、岡村尚さん。山村都市交流センターささま（以下、センター）の指定管理を受け「企業組合くれば」の理事長を務め、仲間と共に笹間へ人を呼び込む「地域おこし」に取り組んでいます。

### 【地域の拠点を再び】

「運動会はもちろん、入学式から卒業式まで、学校の行事には住民総出で駆け付けたものです。大人たちは、生き生きした子どもたちの姿や声がいっつも楽しみで、元気を分けてもらっていました。だから、息子も通った思い出の笹間小学校が廃校になると聞いた時は、それだけは避けたいという思いで、私たちは頭を抱え、真剣に悩みました」と、岡村さんは振り返ります。成長した息子さんもその思いに伝え、子どもの誕生を機に地元に戻り、

家業の農家を始めています。

「そんなとき持ち上がったのが、廃校を利用したセンターの開設です。かつて地域の拠点だった場所で、住民の手による地域おこし。私たちの夢は大いに膨らみました」

の会員で、3年前に理事長に就き、組合を牽引しています。

「笹間の住民は、会員に限らず、地元愛が強いんです。その思いから、意見がぶつかり合うこともしばしば。でも、それでいいのだと思います。」



地域おこしの牽引者  
おがむらひさし  
**岡村尚**さん（川根町笹間）

### 【住民が一丸となって】

センターの開設に合わせて設立したのが、地元住民で組織された「水土里学舎くれば」。その後、法人化して「企業組合くれば」が誕生しました。岡村さんは設立当初から

考えを共有し、みんなでひねり出したほうが、同じ目標に向け、一丸となって取り組めるからです。だから私は、会議の参加者全員から意見を出してもらおうように、呼び掛けています」と話す岡村さんは、

地域の調整役の役割も担っています。

### 【新たな課題に立ち向う】

陶芸フェスティバルをはじめ「特徴ある」地域を目標にする岡村さんたちは、まず地域の自然に目を向けました。「ほたるまつり」もその一つ。笹間の特色でもある自然を後世に残しつつ、地域活性化に結び付く方法を模索して、企画した地域おこしです。

「15年ほど前、笹間川でホタルが大発生し、私たちは幻想的な世界に感動しました。しかし、年々数が減少しているため、自然発生に頼るか、養殖するか、喫緊の課題となっています。このことも十分に議論し、みんなで解決策を見出していきたいと思っています」と地域の課題に、住民自ら立ち向かう姿勢の大切さを教えてくれました。

「私たちは、訪れる皆さんを、精いっぱいのおもてなしでお迎えます。ぜひ笹間のイベントに来て、ゆったりとした時間と緑に囲まれた空間を味わってください」と笑顔で語ってくれました。



— ほたるまつり —  
とき/6月13日(土)・14日(日)  
午後6時～9時  
ところ/笹間川(案内所/山村都市交流センターささま内)

